

学校関係者評価

受審月日 令和4年 3月11日(金)
 評価者 太田 郁子(三重中央医療センター 看護部長)
 西 泉 (松阪看護専門学校 副学校長)
 眞砂 由利(三重県看護協会 専務理事)
 寺田 藍子(しらゆり会 会長)

三重中央医療センター附属三重中央看護学校

評価項目	評 価 コ メ ン ト	4段階 評価点
1 教育理念 目的・目標	<p>学校の教育理念・目的・目標は、看護教育についての考え方や養成所の教育上の特色を表しその意図がわかるよう明文化されている。養成する看護師が卒業時点において持つべき資質が明示されており、目指すべき看護師像が明確になっている。学生便覧、講義概要、実習要項にも記載され、機会あるごとに学生に周知されており、学生に浸透するように努力されている。</p> <p>卒業時点の期待する姿として「社会人基礎力」の指標を活用し評価されているが、このコロナ禍で行事や実習が減少する中、4月の自己評価では低値であった考え抜く「創造力」は3学年ともに上昇傾向にあり、演習や実習準備等において学生が意識できるよう関わった結果と評価できる。</p> <p>教育理念・目標の見直しについては、今年度も、社会のニーズや変化に対応しているかという視点で教員会議にて見直しをされている。</p>	4
2 教育課程	<p>教育課程は指定規則に沿っており、また次年度から始まる新カリキュラム教育課程も規定に応じた内容となっている。今年度はコロナ禍で対面授業が難しい状況であったが、対面での授業とWebによる授業を組み合わせ、順序性を考慮して変更した科目があった。学生評価では、「わかりやすかった」との声もあり、効果的に改善されたと評価できる。</p> <p>教育課程の見直しに関しては、毎年国家試験出題基準に沿ってシラバスを変更し、講師や学生に周知されている。また、評価に関しても科目評価、カリキュラム評価が定期的に行われている。カリキュラム評価は卒業時だけでなく各学年において2回行われており、形成評価をされていることは大変有意義である。</p>	4
3 教育活動・教育指導のあり方	<p>ガイダンスについては、学生がわかりやすいように年2回実施されており、単位履修の方法についてもトラブルが起きていないことから、昨年同様に学生への説明が行き届いていると言える。</p> <p>授業は、授業計画に基づき実施されており、コロナ禍であったがWebでの授業を取り入れ、学生の不利益が生じないよう工夫された。また、学生の技術力が低下していることを捉え、放課後に技術支援の体制を整えられたことは大変よい。学生だけで技術練習するのではなく、遅出勤務の教員が指導することで効果的な練習ができ成果が期待できる。授業科目の担当・時間については、教員の実習担当時間における準備時間が明確にされておらず教員の判断に任されている部分があるため、取得の方法を具体的に明示した方がよい。</p> <p>自己研鑽のシステムについても、研究日を設けて取得できるような体制は取られている。より確実に時間が確保できるよう、実対策の確認をされるとよい。</p> <p>教育方法の工夫・研究については、非常に熱心に取り組まれている。技術指導の工夫、教員による視聴覚教材の作成など教材研究にも努力をされている。また、東海北陸地区での教員研修会では授業研究にも取り組んでいる。</p> <p>臨地実習においては、今年度は同じ設置主体の病院での受け入れは継続的であったため、臨床での実習が可能となり学生にとって有効な実習方法を取れたことは良かった。学生の健康チェックについては、アンケート結果から、「無意味」と受け取る学生がいた。の意味合いが社会人となったときに求められる姿勢につながることを折に触れて説明されるとよいと考える。</p> <p>授業評価については、全教科において学生から授業評価を受けており、教員間の授業評価も実施されている。授業研究が行われており、ほぼ全教員が実施されており、大変素晴らしいことである。今後も継続されることを期待している。</p> <p>単位互換、成績評価・単位認定については、問題なく行われている。</p>	4
4 組織・管理 運営	<p>昨年も指摘したが、学校の組織と関連組織の整備については、事務組織の運営にあたり必要な人数が配置されていないと感じる。専任の事務職員が非常勤であり、事務職に委ねることができる範囲の学校運営に関する事務的な事項を、教員や教育主事が行っているため改善されることが望ましい。</p> <p>教員人事の適正配置や職員の職務分掌については、母体病院の協力を得て臨床指導教員の配置するなど問題なく行われている。</p> <p>会議への参加運営では、今年度は昨年行えなかった講師会議も開催された。</p> <p>学籍の管理については、情報漏洩が起こらないよう管理されている。</p> <p>事業計画は、予算計画も含め立案されており、予算の執行についても学校運営会議にて報告されている。運営意識についても問題はない。</p>	3.9
5 学生生活への 支援	<p>健康管理については、年2回健康診断が実施されており、今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、例年にもましてきめ細やかな指導が実施されていた。健康チェックの意義は社会人に通用する内容であることを折に触れ説明されるとよい。</p> <p>学生相談室、進路相談室については、設置されており有効利用されている。</p> <p>課外活動・ボランティアの支援体制、自治会への支援については、今年度はコロナ禍でほとんどの活動を中止している。9. 社会への貢献と重複するが地域との顔つなぎを積極的に行い、新たなボランティア活動の獲得に努力されるとよい。</p> <p>福利厚生については、新型コロナウイルスの影響を受けた学生のために学生支援緊急給付金の案内を行い、5名が申請されている。また、高等教育の就学支援制度では23名が利用できている。今年度も昨年度同様に、学生の手続きを十分に行っており、学生が学業を継続できる支援体制が整えられている。</p>	4

評価項目	評価コメント	4段階評価点
6 施設整備	<p>校舎の整備と管理については、施設基準を満たす設備が整備・管理されている。安全点検は年3回行われ、修理・清掃も実施されている。災害時のマニュアルについては学生便覧に示され、学生にも入学時、実習前に説明されている。防災訓練も年に1回、実施されている。</p> <p>図書室は整備されており、蔵書や視聴覚機器は整えられている。学生や教員の希望を取り入れ、新規の図書・DVDも購入されている。図書室の運営にあたっては、図書委員を中心に教員、事務職員が協力し合うことで運営されているが、教員の業務軽減のためにも司書の配置を考慮願いたい。</p> <p>教材の整備・管理については、指導も兼ねて学生を巻き込み実施されている。学習に必要な消耗品は、計画的に購入されている。教材・教員の老朽化による破損や故障も増えているようなので、自己評価にあるよう計画的に修理・買い替えをお願いしたい。</p> <p>視聴覚教材を学生に紹介し、活用を促している。教員が作成したDVDの活用が多いことは、素晴らしい。学生のニーズに合わせた教材の選定も必要であるが、教材作成の継続もお願いしたい。</p>	3.9
7 学生の受け入れ	<p>高校生の人口が減少する中、一般入試を2日実施、推薦入試を指定校制、公募制と工夫されており、推薦入試での入学予定者は昨年と同様、定員の40%程度になっている。一般入学試験の応募状況は2.2倍と昨年度より上昇したが、入学生確保では、大学への流出が気になるところである。看護専門学校ならではの強みを強調したPR方法を考え募集活動を活性化させる必要がある。</p> <p>入学試験委員会は計画的に開催され、志願者・合格者・入学者等のデータを分析・評価し運営会議で発表し、検討されている。</p>	3.9
8 卒業生の状況	<p>4月初旬から進路面接を行い、個人の希望に沿った就職先を選択できるよう支援されている。今年は卒業予定者69名中、看護職への就職者は64名、進学者は5名である。就職先の内訳は52名、75.3%が国立病院機構、三重県内への就職者は53名、76.8%で昨年度と比べると高い数値になった。しかし自施設への就職者は近年減少していたが、多少回復が認められる。また昨年度よりも進学者数が減少したことも影響している。</p> <p>卒業生の就職先との情報交換については、各施設からの情報を学生に公開してはいるが、さらに病院との情報交換を密にし、学生が抱くイメージに齟齬が生じないよう工夫されるとなお良い。</p> <p>昨年度の看護師国家試験合格率は97.2%であり、前年度を下回っている。今年度は早期から特別講義を実施し、実習中も小テストを実施するなど学習強化を図られているため成果を期待したい。また、昨年度チューター制を導入したが、支援の必要な学生に指導がいき渡るようにレベル別に改善されたことは大変よい。今後も、学生の学習や精神面を支援できるような試みを実践してほしい。</p> <p>期待する卒業生像に関する評価は十分ではない。今後アンケートを実施するなどして備えた能力の評価を行い、教育課程を検討していただきたい。</p>	3.9
9 社会への貢献	<p>昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で、地域へ向けての活動が難しい状況であった。しかしタイミングを計ってオープンキャンパスが実施できている。進学を決めるにあたって学校訪問を希望する学生は多いため、実施できたことは大変有意義であった。受験者数への影響は少なからずあったと思う。また、今後の受験者数にも影響を及ぼすことは必至であるため次年度の状況が今年度と変わらない場合は、開催方法を工夫し学生のニーズに応えられるように備えてほしい。</p> <p>例年行われていた学校祭やサマーコンサート、ウインターコンサート、公開講座や地域の老人会から要請される出前講座など、全てが中止となった。しかし、クリスマスの飾りつけを母体病院の1階エントランスに行うなどして工夫してできることを実施してきた。職員からの評価もあり、今後もどのような状況下であっても何らかの方法を考え開催を計画してほしい。</p> <p>近隣関連施設との連携については、県内の学校長会、三重県教務主任会議、三重県看護教員継続研修へ参加され、情報交換等が行われている。昨年と同様、貴校は活発に研究活動をされているため、その成果を県内にある看護専門学校と共有することを検討していただきたい。また、ボランティア活動はままならない状況であるが、今後は社会福祉協議会等との連携を取られ、ボランティア活動の紹介はもとより、地域との顔つなぎをされるとよいと思う。</p> <p>国際的視野では「国際看護」の授業科目を設定し、JICAに講師を依頼している。また、海外留学に応じられるような体制が整えられており、今年度は海外でのライセンス申請に来た卒業生に対し、英文での証明書を発行している。</p>	4
10 研究・研修活動	<p>教員が年度当初に研究計画を立案し、それを基に助成金を申請し研究活動を行っている。研究室が設置され、パソコンやipad等の機器も整備されており研究に必要な環境が整えられている。</p> <p>今年度はコロナ禍で学会や研修会の参加が難しい状況であったが、Web参加を活用し積極的に取り組まれている。東海北陸グループ看護教育研修会では授業研究を行い、国立病院総合医学会では2名の教員が研究を投稿し、医療マネジメント学会でも1題投稿されている。また、学校内では全教員が授業研究を実施されている。学内で研究をサポートし合う体制や風土が定着しており、今後も研究活動が活発になされることを期待している。専門領域の研究活動については自己評価が「3」になっているため、専門領域の研究活動について検討してほしい。臨床看護研究については、臨床ナースとの連携や交流はあるが、臨床での研究までには至っていない。今年度、新人看護師を対象にした研究が始まっているため、この研究を契機に臨床にも目を向けられるとよい。</p> <p>研修活動については、東海北陸グループや三重県看護協会主催の研修会に参加されている。教員が積極的に研修活動できるよう年間計画が作成され、旅費や休暇等が申請できる体制が整えられている。今年度も対外的な活動はされており、高校生対象の進路ガイダンスでの模擬授業をはじめ、実習指導者研修の講師や高校の授業の講師を務めている。</p>	3.8
11 学校評価	<p>学校関係者評価委員会の規定を基に、学校関係者評価委員会による評価が開始され3年が経過した。自己点検・評価に必要な基礎データを整備し、客観的に評価されている。自己点検・評価の結果は教員会議及び学校運営会議で報告され、教職員に周知されている。昨年度の結果はホームページ上で公表されており、今年度も公表される予定である。</p>	4

< 総評 >

今年度も、新型コロナウイルス感染症流行により授業形態の多様化は余儀なくされた。実習は施設の協力によって臨地での実施が叶った。しかし地域交流はままならない状況が続いた。そのような状況下でも、様々な工夫と努力によって目標達成を果たされた。学生による科目評価の平均の上昇は昨年度からの改善の結果の表れとも言えよう。また、今年度は第5次カリキュラム改正に向けた申請年度であった。先に述べた環境にありながらも無事に申請を終え来年度から始まる新カリキュラムに取り組む中で現行カリキュラムの見直し、評価の機会を得られたことはよかったと思う。

従来より教員による授業評価や研究を実践する風土、文化があることは大変評価すべき点である。地域の看護教育の質向上に活用していただきたいところである。

今回も昨年同様、事務職員の増員を提案させていただいた。このように外部評価を受けることで外部がとらえた声を、提言で伝え続けていくことも現状を改善する上では必要な行動ではないかと感じる。一方、年間3回行っていた点検を1回に減じ、専門家に任せることで教員の雑務を減じて本来行うべき教育活動時間を増やしたことは次年度に向けた改善点である。

最後に次年度は、昨年度に引き続き提言したが、卒業生像への到達評価について評価方法を検討し、調査・分析されることを期待している。